

全日本特別支援教育研究連盟北海道地区研究集会のための

事前学習号

第72回

北海道特別支援学級教育研究連盟 全道大会



(釧路大会)

令和6年11月7日(木)

会同とオンラインによるハイブリット型大会

第12次3カ年研究計画／第3年次研究

研究主題 未来をたくましく生きる姿を目指して

研究副主題 “身につけさせたい力”を踏まえた授業づくり

四つの分科会と3年次テーマ

第1分科会

生活の基礎を育む

「食」

第2分科会

生活に活かす力を育む

「行きたい」

第3分科会

人間関係を育む

「相互理解」

第4分科会

社会にはばたく

「夢に向かって」

第12次研究計画(3カ年)

2022～2024

研究主題

未来をたくましく生きる姿
を目指して

研究副主題

“身につけさせたい力”を
踏まえた授業づくり

第 12 次研究計画について

前第 11 次研究より

学習指導要領の改訂を受け、前研究である第 11 次研究では、研究主題を「未来をたくましく生きる力の育成」、研究副主題を「学習指導要領改訂のポイントを押さえた授業づくりを目指して」とし、知的障害特別支援学級における授業づくりをテーマとして取り上げました。国語科や算数科などの「教科別の指導」では、子どもたちのものの見方や考え方を育成し、課題解決の能力を高めることに繋がっていることや、生活単元学習などの「各教科等を合わせた指導」では、子どもの生活に即した活動や経験を通して、子どもの“分かる”や“できる”を増やすことが重要となります。

いずれの授業づくりにおいても、障害に起因する児童生徒の実態を的確に把握することが、全ての授業づくりにおいての始まりとなります。その上で、学習指導要領に示される指導内容を適切に選択し、課題解決に向けた個に応じた指導方法の工夫や、子ども同士の学び合いが生まれる活動の設定などを行っていくことが、子どもたちの「生きる力」を育むことにつながることを確認されました。

研究主題・研究副主題の設定について

学習指導要領の全面実施、そして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、GIGA スクール構想の実現が加速化され、更には、令和 3 年 1 月、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた答申が中央教育審議会¹にて取りまとめられました。「令和の日本型学校教育」では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」を一体的に充実させていくことを掲げています。これまで特別支援教育が大切に続けてきた「個の理解」と「個に応じた指導」の重要性や、新しい時代の新しい教育観が私たちに求められています。時代の流れや、新たな生活様式を取り入れた教育活動の変化等に対して、子どもたちが対応していくことはもちろん、我々教師もその変化に対応することが重要となります。

令和 2 年 2 月以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、各学校の教育活動をはじめ、各種研究団体の活動を停止せざるを得ない状況に陥りました。本連盟においては、令和 2 年度に開催を予定していた根室大会を中止する判断に至りました。このように変化の激しい時代において、「子どもたちが身に付けるべき力はどのようなものか」「私たち教師が身に付けていかなければならない力や考え方はどのようなものか」について改めて見つめ直す必要があると考えました。

そこで、令和 3 年 4 月に研究誌「未来をたくましく生きるために身につけさせた力 28」を発刊しました。子どもたちが将来を「たくましく生きる姿」を想像し、

“なぜその力が必要なのか” “そのためには何を身に付けなければならないのか” について、各学校での実践や、道精連、北障研、道特連と続いた研究集録や研究誌を紐解きながら本誌にまとめました。

このような教育を取り巻く環境の変化や本連盟の取組等を踏まえて、次に示すような「研究主題」及び「研究副主題」とすることとしました。



¹ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申)



研究主題

未来をたくましく生きる姿を目指して

第11次研究、さらには研究誌「未来をたくましく生きるために身につけさせたい力28」の発刊を通して明らかになったことがあります。それは、いかなる時代の変化や教育改革においても、本連盟が謳い続けてきた「本物の力」の育成の精神は、今も昔も変わるものではないということでした。

小学校及び中学校学習指導要領においては、「今回の改訂が目指す理念を実現するためには、・・・教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を超えた組織運営の改善を行っていく・・・」とされています。このことは、知的障害のある児童生徒の実態に即して「各教科等を合わせた指導」を行ってきた、特別支援教育の考え方と変わらないものとも言えます。したがって私たちは、これまで特別支援教育が培ってきた教育技術を受け継ぎながら、ICT 機器などの新たな教育環境なども、目的達成のための有効な手段として活用しながら授業づくりを行なっていくべきであると考えます。

そこで、第12次研究では「未来をたくましく生きる姿を目指して」を研究主題とし、3年計画で研究を推進していくこととします。この研究を通して、子どもたちが社会の変化を前向きに捉え、感性を働かせながら、自分の生活をよりよいものにしていこうとする「たくましく生きる姿」を目指したいと考えます。

研究副主題

“身につけさせたい力”を踏まえた授業づくり

私たちは、児童生徒の実態を的確に把握したうえで、個に応じた指導内容の選択や目標を設定し、指導の手だての工夫を図りながら日々の教育活動を行なっています。では、このような取組を積み重ねるだけで、子どもたちの「たくましく生きる力」を引き出すことができるのでしょうか？

特別支援教育においては、子どもの「たくましく生きる姿」につながるために必要な要素をより具体的に想定しながら、子どもたちの個性の伸長や人格の形成を図っていく必要があります。本連盟では、これらの要素を「身につけさせたい力」としました。これらの「身につけさせたい力」は、限定的な場面でのみ発揮される力ではありません。場面や状況の変化、さらには気分の“むら”などにも左右されることなく、常にどんな場面でも発揮される力です。子どもたちが自分の持てる力を発揮しながら、たくましく生き抜いていく姿に繋がる授業づくり、さらには授業を通じた児童生徒の育成について模索していきたいと考えます。

分科会の構成

第12次研究は3年次研究とし、各分科会を、主として知的発達に遅れがある児童生徒を対象とした授業づくり分科会としました。

各分科会テーマの設定にあたり、研究主題である「未来をたくましく生きる姿」を目指すための“子どもたちが獲得していく力”（身に付けさせたい力）を大きく四つのカテゴリーに分類し、以下の通り設定しました。

第1分科会 「生活の基礎を育む」・・・基本的な生活習慣、運動、体力 など

第2分科会 「生活に活かす力を育む」・・・意欲、言葉、数 など

第3分科会 「人間関係を育む」・・・社会性、情緒の安定 など

第4分科会 「社会にはばたく」・・・社会の仕組み、余暇、働く など

授業づくりにおいて、私たちはこれまで、個に応じた指導内容を選択し、目標の達成に向けた指導方法の工夫や、活動の設定などを行うことが多かったのではないのでしょうか。そして、学習指導要領に示される「三つの柱」に即した目標設定や評価も行なっていると思います。

第12次研究副主題である「“身につけさせたい力”を踏まえた授業づくり」という観点で授業を見つめ直すと、各教科のねらい達成のための指導の工夫に加え、学びを通して子どもに“身につけさせたい力”を具現化するための手だてや支援も生まれると思います。しかし、このことは新たな授業を生み出すということではありません。各教科等の学びの先にある、子どもたちの個性の伸長や人格の形成をしっかりと見据え、子どもに“身につけさせたい力”をより具体的に設定した上で教育活動を展開していくとすると、これまでとは異なる展開の方法や指導の工夫、教材の活用方法や活動の設定といった様々なアイデアが生まれてくることでしょう。これらのアイデア等について実践を出し合うことで深め、今後の授業づくりに生かせるものとしていきたいと考えています。

分科会テーマと提言割当

	令和4年度 南上川大会	令和5年度 檜山・江差大会	令和6年度 釧路大会	
授業づくり分科会	◇ 第1分科会 ◇ 生活の基礎を育む 分科会			
	テーマ	整 (ととのえる) ・清潔、衛生 ・安全、きまり ・トイレ 入浴 身辺	体 ・運動、体力 ・手足をつかう ・体力向上を感じる	食 ・食生活を楽しむ ・育てて作って食べる ・偏食、食べ過ぎ
	提言	(南上川) (西胆振)	(石狩) (檜山)	(札幌) (宗谷)
	◇ 第2分科会 ◇ 生活に活かす力を育む 分科会			
	テーマ	知りたい ・自己決定 ・自己選択 ・ICT 機器の活用	欲しい ・お金、買い物 ・援助を求める ・貯金 計画性	行きたい ・時刻、時間 ・スケジュール ・マナー
	提言	(中上川) (北空知)	(函館) (後志)	(釧路) (西胆振)
	◇ 第3分科会 ◇ 人間関係を育む 分科会			
	テーマ	自己理解 ・自己理解、自信 ・気持ちの安定 ・まあいいか	他者理解 ・集団活動 協力 ・憧れ ・ゆずる	相互理解 ・役割 ・喜び ・援助を求める
	提言	(南空知) (北上川)	(函館) (後志)	(オホーツク) (札幌)
	◇ 第4分科会 ◇ 社会にはばたく分科会			
テーマ	世界が広がる ・社会の仕組み ・公共施設の利用 ・行動力	喜びが生まれる ・趣味、余暇 ・リフレッシュ	夢に向かって ・憧れ ・夢 ・自己有用感	
提言	(留萌) (札幌)	(渡島) (中空知)	(北空知) (十勝)	

第1分科会 生活の基礎を育む分科会
3年次研究テーマ

『身につけさせたい力 28』関連項目

- 3 食生活を楽しむ
- 6 健康・安全
- 19 趣味、楽しみ、喜びがある

「食」

未来をたくましく生きる姿

- ◆ マナーを守り、楽しく食事をする
- ◆ 栄養の働きについて知り、量やバランスを考えて食事をする
- ◆ 簡単な食事を自分で作ることができる

■食との向き合い方■

転校してきた当初、小学校6年生のAさんは、好きなものを好きなだけ食べることが良いことだと感じている様子があった。本人に聞くと、全く手をつけないものに対して「いらない」「必要ない」と捉えていることが分かった。

外国語の「What do you want?」の学習や栄養教諭とのフードロスの食育指導を通して、好きなものを食べるだけではなく栄養面や、食べ物が出来るまでの過程について学ぶことで、自身の「食生活」を見直すようになった。

「食べる」ことの大切さやその意義を考えていくと、「おいしい」「楽しい」だけでなく、健康に生活していくためでもあるということを知る必要があります。また、将来の「自立」を考えると、自分で食べるものを「作る」「買う」などの必要があります。

食生活を豊かにするための知識と技能は、人が「生きる」上で必要不可欠です。この豊かさの実現に向けては、学校と家庭との連携がとても大切になってきます。学校での各教科等の学びや給食指導、そして家庭での食生活の場を通して総合的に育まれていくものです。

“食べたい”という気持ちとともに、それを実現させるために必要な力などを身に付け、豊かな生活へのエネルギーとつなげることができるような姿を目指したいものです。

何を身につけるの？

食べる

- ・好き嫌い(偏食)せず
- ・バランスよく
- ・基本的マナー(食事への喜びや楽しさ)に気を付けて

食べるものを得る

- ・作物を栽培して
- ・買いものをして
- ・調理の知識・技能

食への関わり

- ・フードリサイクル
- ・食と健康
- ・グルメ(食文化)の知識・技能

本分科会では、子どもたちの心身の健やかな成長を目指し
「食生活を豊かにする」ことにつながる授業づくり

について交流します。

CHECK! 

■話し合いの視点■

- ☆ 「食への関心を高める活動内容と指導・支援内容の工夫
- ☆ 子どもたちのさまざまな「食」の課題に対して、調理学習や給食指導などを通して“できるようになったこと”や“新たに発見したこと”などを、どのように生活につなげていくのか、つながったのか。

このような提言をお願いします！

「食」への関心を高める授業、個々の「食」の課題の解決につながるような授業をどのようにしていますか？また、将来の「自立」を見据え、毎日の生活の中でどのような教育活動を行っていますか？

食べる

生活単元学習「外食に行こう」

- ・学校や家でも、食への関心が低く、食べるものに偏りがある。
- ・学校給食では、少しずつ新しいメニューにも挑戦するなど、食への関心のきっかけ作りをしている。

- ・好きな食べ物については、自分から進んで食べることができる。
- ・体験的な学習を通して、様々な料理を知り、食への関心を高める。

- ・食べたいものを自分で選んで食べる、という活動を通して食事の楽しさに触れる。
- ・食事のマナーや所作について知る。
- ・いろいろな種類の食べ物に触れる機会を通して、食への関心を高める。
- ・楽しく食事ができる雰囲気をつくるようにする。

上記の学習と関連付けて、『日常での会話、他の授業・取組、給食指導、家庭での取組』などを行い、以下の変容につなげる。

- ・給食中、普段はただ、食べているだけであったが、給食中に会話が生まれたことで、食べている物への関心を示し、食事の感想を言うなど楽しむことが増えた。
- ・様々な食材やメニューに触れる機会が増えたことで、いろいろな物を食べてみようとする姿があったり、残さずに食べたりすることが増えていった。

「豊かな生活」につながっていく「食」の経験を子どもたちにどのように積み上げていくかを考えていきたいと思えます。「食」がテーマとなっておりますが、「食べる」「作る」だけでなく、それらを通して「食への関わり」「将来の自立」などを関連付けた実践紹介をお待ちしております。

作る

家庭科・生活単元学習「みそ汁作り」

- ・自分の興味関心のあることに深く集中する傾向があり、調理をしたり、買い物に行ったりすることは少ない。
- ・朝食をしっかりと摂り、給食を残さずに食べる習慣を身に付けることが課題だが、栄養の知識を生かしながら授業に参加することができる。

- ・具材を考える。食べたいものだけではなく、健康のことや栄養を考える。
- ・調理する。安全や衛生に気を付け、食材の調理の仕方を考える。
- ・後片付け指導（食器洗いの仕方、環境への配慮、ごみの分別など）

- ・料理を作ることの大変さを知り、家庭でのご飯や給食への感謝の気持ちが生まれる。
- ・自分で調理して食べる楽しさや喜びを感じたり、作ったものを食べてもらう喜びを知ったりする。

- ・給食メニューに書かれている食材に注目するようになった。 食材の産地や調味料、作り方などに興味・関心を示すようになった。
- ・家庭でお手伝いをするようになり、買い物の時も食材を選ぶことを手伝うようになった。
- ・食事の目的を考え、健康を意識した食べ物を食べたり、3食しっかりと食べたりするようになった。

【文責 道特連事務局 札幌市立平岸中学校のぞみ分校 教諭 因幡 拓哉
札幌市立篠路西小学校 教諭 中井 優介】

第2分科会 生活に活かす力を育む分科会『身につけさせたい力28』関連項目
3年次研究テーマ

- 9 暦・時刻と時間・スケジュール
- 21 自己選択・自己決定
- 24 お金が使え
- 25 ICT機器の活用
- 26 社会の仕組み
- 27 公共の施設を利用できる

「行きたい」

未来をたくましく生きる姿

- ◆ 身近な地域の施設や公共交通機関の利用方法が分かる
- ◆ 時間の量感を意識して、自分でスケジュールを管理することができる
- ◆ インターネットなどから正しい情報を収集することができる
- ◆ お金や時間等を考慮して、自分が行きたいところを選ぶことができる

■ 「新千歳空港に行きたい！」

家族でのお出かけの際につぶやいた言葉である。学級では JR を利用した現地学習を行っており、その子は楽しかったことを思い出し、父親に伝えたようである。学校での学習したこと（切符の購入、スケジュール、スタンプラリー、食事など）や楽しんでいたことなど、その子が一人で行ってきたことなどを伝え、家族で行くのであれば、できることは一人でやらせてみてはどうかと提案した。実際に、切符の購入は大きなお金を渡したら、目的地までの切符の購入とお釣りを取ることができ、新千歳空港到着後も、空港内の道案内からスタンプラリー、そして、食事の注文まで家族で楽しむことができたとのこと。食事の場所、注文した内容まで経験したとおり忠実に再現。ここまでできるとは！ 保護者は感激していた。

「行きたい」という思いには、「〇〇が見たい」「△△を経験したい」など、明確な目的意識が生じているはず。その目的を達成するためには、「計画を立てる」→「行先にたどり着く」→「行先で目的を達成する」という行程が必要になってきます。どの行程においても共通して、「自ら選び、決定すること」が求められるのではないのでしょうか。目的や行先を決定すること、行く手段を選ぶこと、着いてからの行動など、自己決定が必要になる場面は多々あります。もちろん、やみくもに決定すれば良いわけではありません。たくさんの情報の中から取捨選択する力が備わっていたり条件に合ったスケジュール管理ができたりして、ようやく適切な自己決定を行うことができます。

何を身につけるの？

交通機関等の利用

- ・ 金銭、ICカード等の取扱
- ・ 時刻や時間が分かる
- ・ スケジュールの変更に対応することができる
- ・ マナーを身に付ける

情報の収集や活用

- ・ ICT機器の使い方を知る
- ・ 行先に関わる情報を事前に調べることができる
- ・ 情報の真偽について自分で考えたり、誰かと一緒に確認したりする

自己決定能力

- ・ 与えられた選択肢から選ぶ
- ・ 目的や行先を決定することができる
- ・ 適切な移動方法を選択する

本分科会では、生活に活かす力を育むために、
子どもたちの「行きたい」をかなえる授業づくり
について交流します。

CHECK! 

■ 話し合いの視点 ■

- ☆ 交通機関等の利用や情報の収集や活用について、具体的にどのように指導していますか。
- ☆ 自己決定を促すための授業の工夫には、どのようなものがありますか。

このような提言をお願いします！

子どもの「行きたい」を叶えることにつながる学習を
どのように展開していますか？

公共交通機関等の利用について



家や学校の近くにどんな公共交通機関があるのかも知らないよ。慣れないことは苦手だし、今のままでも特に困ることはない気がするなあ。

情報の収集や活用について



修学旅行の自主研修で何をするかを決めるのが難しい…。行ったことがない場所だから、何が有名なのかも分からないし。調べてみようにも、調べ方もよく分からない…。

～ 日常の学習を通して ～

「市の様子（社会科：小学3年）」より

- 公共交通機関の種類や役割について知り、行きたい場所に辿り着けることの良さを学んだ。
- 近くにどのような公共交通機関があるのかを調べ、具体的にどのように自分の行動範囲が広がるのかを知ることができた。

「規則の尊重（道徳科 内容項目C）」より

- ルールやマナーが何のためにあるのかを考える活動を通して、公共の場での良い過ごし方について見直すことができた。

「新聞を作ろう（国語科：小学4年）」より

- 新聞作りのテーマに応じて、インターネットや書籍、新聞等から必要な情報を収集できた。
- 文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトを使って紙面を作成することで、ICT機器の操作方法を学んだ。

「情報モラル e-learning コンテンツ」より

- インターネットで得た情報について、その信用性について考えたり、教師や友達と一緒に確認したりすることができるようになった。

～ 宿泊学習（集団宿泊的行事）や校外学習（生活単元学習）を通して ～

「校外学習に行こう」（生活単元学習）

- 目的地や行き方、公共交通機関の出発時刻など知ることで、時間を意識して行動する気持ちを育むと共に、見通しを持つことで前向きな気持ちで校外学習に参加できるようになった。

校外学習での姿から

- スケジュール通りに移動したり、マナーを意識して行動したりすることができていた。

修学旅行での姿から

- 事前に調べた情報通りに行動したり、不測の事態には新たに情報を更新したりする経験を重ねることができた。

「後輩たちに伝えよう」（総合的な学習の時間）

- 修学旅行の振り返りを後輩たちに発表するために、ICT機器を活用してプレゼンテーションを行うことができた。

公共交通機関を正しく利用すると、いろいろなところに行けるんだ！前までは考えてもみなかったけど、行動範囲が広がったから、行ってみたい場所が増えてきたよ。



学習を終えて…



目的に応じて必要な情報を調べられるようになって、とても便利だな。情報機器を正しく使えたら、生活のいろいろな場面で活用できることも分かったよ。

子どもたちの「行きたい」という思いを叶え、発展させることができるような授業実践や具体的な取組・支援の在り方等に関する提言をお願いします。

【文責 道特連事務局

札幌市立桑園小学校

教諭 手嶋 浩太郎

札幌市立手稲鉄北小学校

教諭 岩間 叶実】

第3分科会 人間関係を育む分科会
3年次研究テーマ

「相互理解」

『身につけさせたい力28』関連項目

- 7 「まあいいか」「大丈夫」と思える
- 10 ゆずる
- 11 人との関わり
- 14 友達と付き合う
- 20 自分を理解する⇒自分に自信をもつ

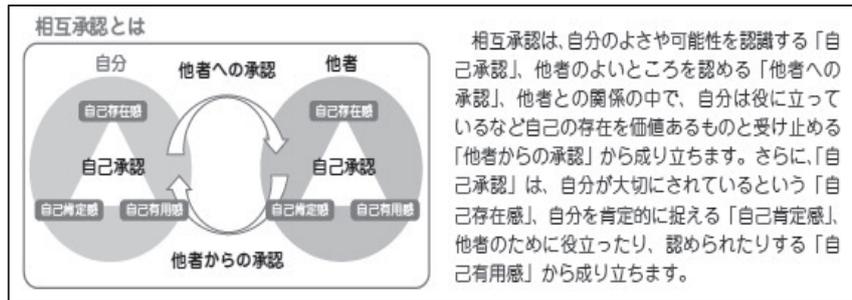
未来をたくましく生きる姿

- ◆ 相手の気持ちを考えて会話や行動をすることができる
- ◆ 自分は役に立っているなど自己の存在を価値あるものと他者から認められていることを受け止めることができる
- ◆ 多様な見方や考え方があることを理解している

■相互理解の考え方■

下図と解説文は、「令和5年度札幌市学校教育の重点」に掲載されているものです。「承認」を「理解」に置き換えると、この分科会のテーマそのものだと考えられます。解説文からは、これまでのこの分科会のテーマの「自己理解」「他者理解」との関係性も表れています。

端的に言えば、「相互承認（理解）」は、まず「自己承認（理解）」が重要であり、その上で、他者からの承認（理解）、自らも他者を承認（理解）すること、この繰り返しと積み重ねが相互承認（理解）となるのだと思います。



※「令和5年度札幌市学校教育の重点」に、この分科会テーマの内容や関係性が、整理されていたので、参考とするため、事前学習号に掲載しました。「理解」と「承認」は、その意味は類似していますが、「承認」の方が肯定的に認める内容が付加されていると考えられ、この分科会のテーマには、より即しているとも言えます。

何を身につけるの？

自己理解

- ・自分のこと（強みや弱みなど）を知る（承認）
- ・自分の言動を振り返る
- ・自己肯定感、自己有用感

他者理解

- ・話し合う力
- ・伝え合う力
- ・他者のことを知ろうとする（承認）
- ・他者の状況を推測する
- ・集団の中で折り合える

相互理解

- ・多様性を認める
- ・他者からの理解（承認）
- ・他者への理解（承認）
- ・役割をもつ
- ・予測の幅を広げる
- ・自己決定力を伸ばす

本分科会では、人間関係を育むことを見据え、
子どもたちの「相互理解」につながる授業づくり

について交流します。

CHECK!

■話し合いの視点■

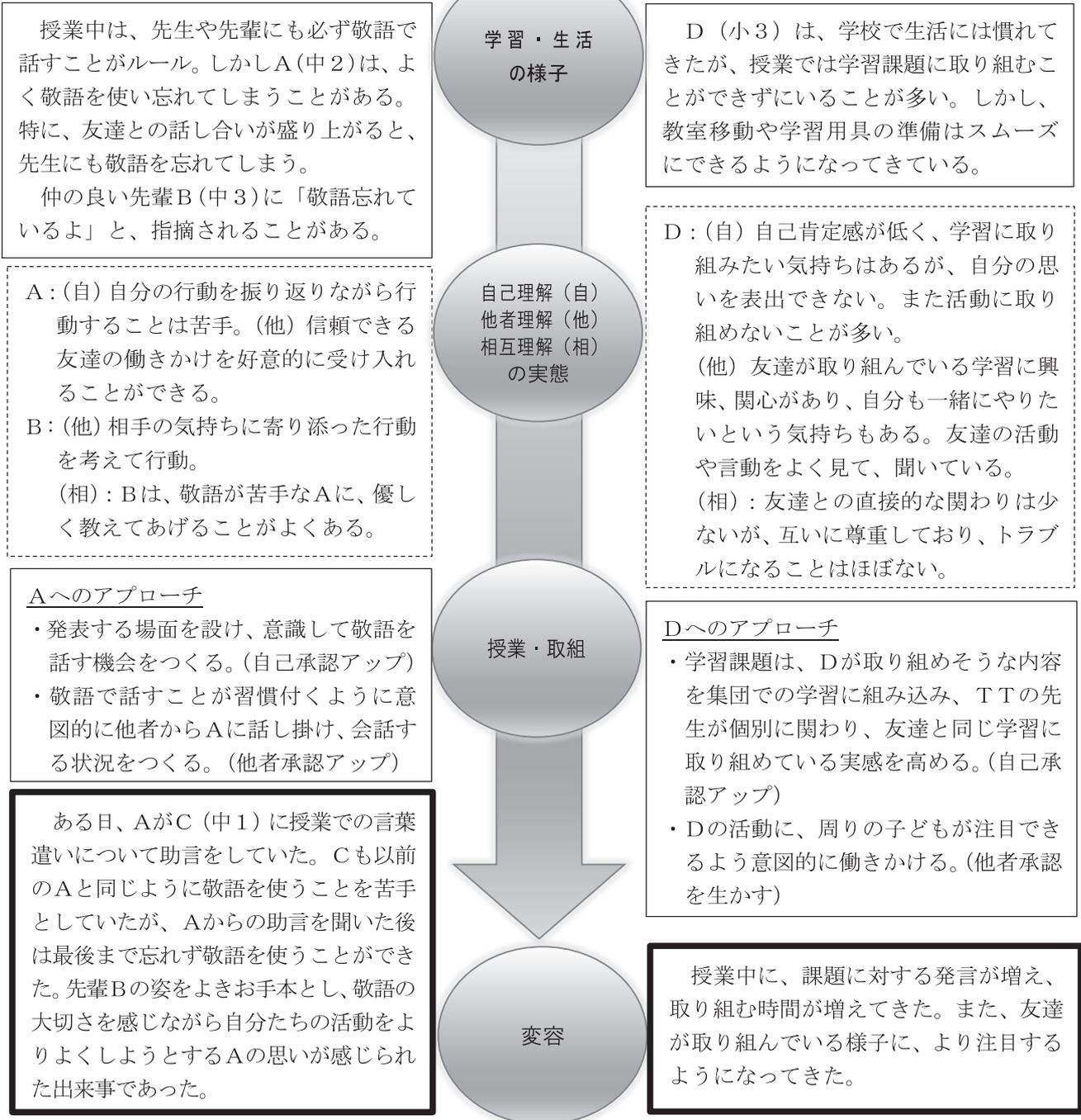
- ☆ 子どもの育ちに応じた「相互理解」をしている姿とは
- ☆ 「自己理解」「他者理解」「相互理解」につながる授業（取組）について

このような提言をお願いします！

相互理解の力を身に付けるために、どのような授業・取組を行っていますか？

事例1

事例2



他者との関わりの中で相互理解を深めていく子どもたちの姿や、そのような姿を引き出すことにつながる授業実践等について提言をお願いいたします。

【文責 道特連事務局 札幌市立しらかば台小学校 教諭 扇 宏佑
 札幌市立光陽小学校 教諭 塚本 智沙
 札幌市立厚別東学校 教諭 渡辺 大介】

第4分科会 **社会にはばたく分科会**
3年次研究テーマ

『身につけさせたい力 28』関連項目

- 16 憧れを持つ
- 20 自分を理解する⇒自分に自信を持つ
- 21 自己選択・自己決定
- 26 社会の仕組み

「夢に向かって」

未来をたくましく生きる姿

- ◆ 「夢」や「憧れ」といった、“なりたい自分”がある
- ◆ “なりたい自分”に向かって、前向きに挑戦する姿
- ◆ 挫折や失敗も受け入れながら、自分と向き合おうとする姿
- ◆ 社会資源とつながり、自分に合った活用をしている

■夢ってなあに？■

子どもに「“夢”はある？」と尋ねると、具体的な職業を答える子どももいれば、「ない」と答える子どもも少なくない。ある子どもの夢は、プロ野球選手だと言う。日常的に野球を習っているわけでもなければ、練習をしているわけでもない。このように、夢そのものや、夢に向かう道が見えにくい子どもがいるのも事実である。

そこで、各教科や自立活動などにおいて、仲間と共に課題に取り組む過程の中で、仲間の姿が見えたり意識できたりする活動を積み重ねた。そこから半年が経ち、少しずつ「すごい！」「〇〇さんみたいになりたい！」「次は私がやってみよう！」などと、小さな声ではあるが、他者を意識する姿や発言が増えてきた。

子どもたちは、学びや体験を積み重ねながら、“ひと・もの・こと”とつながっていきます。そして、達成感や自己有用感を高めながら、さらに、そのつながりを広げたり、深めたりしていきます。

「憧れ」や「夢」を抱くことは、子どもの原動力となると考えます。そのことで、学びに向かう姿勢が変化したり、自ら“ひと・もの・こと”とつながろうとしたりする姿が見られるようになることでしよう。このような姿こそが、「夢に向かって」踏み出す姿と考えます。

夢＝就労 とだけ捉えるのではなく、“夢”に対する私たちの捉え方や視点を広げてみることも必要です。学校や家庭や地域など、子どもにとっての身近なものが、“小さな夢”となり、自己実現を果たしていきます。そして、その積み重ねの先に、“大きな夢”を抱いて社会に羽ばたこうとする姿があるのではないのでしょうか。

何を身につけるの？

なりたい自分を見付ける

- ・目標とする人や事柄を見付ける
- ・新しいことに興味を持ち、視野を広げる

自分について知る

- ・得意な事、苦手な事
- ・夢に近づくために必要な事柄を考える
- ・苦手な事への対処方法

行動力

- ・自分で選択し決定する力
- ・勇気をもって行動する力
- ・失敗を修正し、次に繋げる

本分科会では、子どもが社会にはばたくことを見据え、

「夢に向かって」踏み出す気持ちを育む授業づくり

について交流します。

CHECK!



■話し合いの視点■

☆各教科等を通して育むことができる、子どもの踏み出す力とは？

☆“ひと・もの・こと”とのつながり（子どもの世界）を広げるために、どのような体験的な活動を行っていくことが考えられるか？

このような提言をお願いします！

子どもたちの「夢に向かって」踏み出す気持ちを育むために、
どのような教育活動を行っていますか？

Aさん（小学5年生）の場合

希望して図書委員になったが、休み時間がつぶれるし、委員会なんてやりたくない！

夢は特にない

夢なんてないなあ。このままでもいいよなあ。



国語「インタビューをしよう」

- 6年生が学習発表会の合唱に取り組む様子について、どんな気持ちでどんな練習をしているのか等、聞きたいことの要点を絞って質問したり、聞いたことをメモしたりする学習に取り組む。

道徳「みんな同じだったら」

- 自分の良いところ、苦手なことについて考えたり、自分らしさをどのように生かしていくかを考えたりする。

委員会活動

- 手本となりそうな6年生と同じグループを編成し、活動を間近で感じられるようにする。

あんな6年生になりたい！



- 6年生に強い憧れの気持ちを抱くようになった。自分の良さや自分らしさについて考えるようになった。
- 委員会での話し合い活動では、意見を活発に発表する姿が増え、当番に積極的に取り組むようになった。

実態

授業
・
取組

変容

Bさん（中学2年生）の場合

志望校に行きたい！

行きたい学校は、家から遠いなあ。通学方法も変わるし、自分のことは自分でしなくては・・・。



進路学習

- 中学校卒業までに身に付けなければならない力は何かを考える。

家庭科「日常食の調理と食文化」

「金銭の管理と購入」等

- 衣食住の基本的なスキル、規則正しい生活、お金の管理や購入方法の種類や知識を学ぶ。

生活単元学習「校外学習を計画しよう」

- みんなが楽しめる場所を探したり、公共交通機関や公共施設の利用方法について調べたりする。学級内でプレゼンテーションを行う。

できることが増えてきた！
高校生になるのが楽しみ！

- 課題が明確になり、学習面、生活面共に主体的に取り組む姿が多く見られるようになった。
- 今、身に付けるべき力を認識し、家庭での手伝いを積極的に行うようになった。

上記例の変容後の姿は、文部科学省が提示している「キャリア教育として育む必要のある四つの能力」を具現化したものでもあります。本分科会では、夢に向き合う姿、夢に向かう姿を育む実践やそれに伴う子どもたちの姿について交流する分科会にしたいと考えています。

子どもが夢や憧れを持ち、それに向かって前向きに取り組むことができるようになった実践について、子どもの変容も併せて提言をお願いします。

【文責 道特連事務局 札幌市立西岡北小学校 教諭 後藤 佑里香
市立札幌豊成支援学校 教諭 沓澤 みか子
札幌市立青葉中学校 教諭 長嶋 里恵】

今年度の分科会担当者

◇ 第1分科会 ◇ 生活の基礎を育む

『食』

提言地区	札幌・宗谷		
担 当	因幡 拓哉	札幌市立平岸中学校のぞみ分校	【011-812-2616】
	中井 優介	札幌市立篠路西小学校	【011-772-0275】

◇ 第2分科会 ◇ 生活に活かす力を育む

『行きたい』

提言地区	釧路・西胆振		
担 当	手嶋 浩太郎	札幌市立桑園小学校	【011-611-4211】
	岩間 叶実	札幌市立手稲鉄北小学校	【011-681-2287】

◇ 第3分科会 ◇ 人間関係を育む

『相互理解』

提言地区	オホーツク・札幌		
担 当	扇 宏佑	札幌市立しらかば台小学校	【011-852-4090】
	塚本 智沙	札幌市立光陽小学校	【011-761-2521】
	渡辺 大介	札幌市立厚別東学校	【011-898-4650】

◇ 第4分科会 ◇ 社会にはばたく

『夢に向かって』

提言地区	北空知・十勝		
担 当	後藤 佑里香	札幌市立西岡北小学校	【011-855-5456】
	杳澤 みか子	市立札幌豊成支援学校	【011-583-7810】
	長嶋 里恵	札幌市立青葉中学校	【011-891-4351】

お問い合わせは

北海道特別支援学級教育研究連盟事務局
札幌市立新陵東小学校内 事務局長 上原子 健介
〒006-0805 札幌市手稲区新発寒5条4丁目2番1号
電話 (011) 684-5561 FAX (011) 684-3498 e-mail doutokuren@gmail.com

◇ 分科会の更に詳しい内容については、各分科会担当者にお問い合わせください

◇ 研究全般のご質問についてはこちらへ

研究部長 平山 一馬 札幌市立手稲東小学校
電話 011-661-1516 Fax 011-661-9467